日本大學 農獣醫學部 校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京商工ＫＫ

新執行体制スタート

総会で新会長に庄川氏

総会で挨拶の庄川新会長

出席した神奈川県在住校友

昭和六十二年度農獣医学部校友会総会と懇親会が、七月十一日（土）東京・新宿のホテル・センチュリーハイアットに、遠くは大阪支部、秋田県支部の代表含め総勢一七〇余名の校友と来賓が集い、開催された。

総会は石井事務局長の司会で開会、佐藤会長が挨拶のあと、議長に選出され、議事に入った。

第一号議案の前年度一般経過報告では、例年にも増して各種事業が活発に行われたこと。とくに前年度総会で承認を得た講堂兼体育館（農沢校舎）の竣工を祝し、記念品として五〇〇万円の緞帳を贈呈し、学部より感謝状の授与を受けたとの報告があった。

第二号議案の会計決算報告は、月瀬会計担当より計数説明のあと山根監事より「適正に処理されている」との監査報告を受け、満場一致で別表（二面掲載）の通り承認された。

第三号議案で、本年度の事業計画と、その基盤となる予算案の審議を行った。事業の重点は明年の校友会結成四〇周年記念祝賀会、記念史及び会員名簿の発刊に置くが、財政状況（収入）は、前年比一五・八％の減収が見込まれるとの説明に対し、減収の理由はなにか（新入生の減少による）、収支の均衡方法（積立金の引当）など建設的な質疑を経て、現事会の原案通り可決された（次頁予算表参照）。

第四議案の役員改選は、会則第十条により、新会長に庄川（拓友会）、新副会長には茂沢（柴友会）一川（工学会）、野田（食品工学会）の各氏が、六月五日開催の理事会で互選、総会に報告承認された。各分会選出の新理事と監事は下段の農獣医学部役員一覧のとおり、再任または新任役員に選出承認された。

なお、学部部校会役員改選に伴う日本大学校友会及び寄付行為に基づく校友会関係役員は、次のとおりである。

日本大学校友会参与　佐藤弘一
〃　常任委員　庄川洋一
〃　常任委員　茂沢　昊
〃　〃　委員　一川宏也
〃　〃　委員　野田義人
日本大学学識評議員　佐藤弘一
〃　校友評議員　庄川洋一
〃　校友協議員　田中延吉

最後に、庄川新会長より石井事務局長の後任に高坂鉄雄氏が指名され、これをうけて高坂氏が新事務局員（下段表参照）を紹介、新執行体制の出発承認をもって総会を終了した。

懇親会は木村庶務担当の司会で開始、最初に新会長より総会の経過、役員改選で新執行体制がスタートしたことの報告、参会者への謝意が述べられた。多数の来賓を代表して、日本大学副総長である昊、本会の名誉会長でもある久木田学部長、日本大学校友会本部の久恒事務局長よりお祝いの挨拶をいただいた。続いて、農獣医学部伊藤事務局次長の発声による乾杯をもって懇談に入った。

学生時代は遠くて、近すぎるがたかった恩師と、なつかしい同期生と、また先輩と後輩が一堂に会し想い出話に時間の経過を忘れてのなごやかな歓談が続き、校友会の目的の一である会員相互の親睦が、はかられたものと思う。

茂沢副会長の発案で、閉会に先だち前役員全員に登壇していただき、永年にわたる役員としてのご尽力に対し、割れんばかりの拍手を贈り、盛会裡のうちに宴を閉じた。（事務局）

高梨総長が再選

任期満了に伴う総長選挙は、昭和六十二年六月十八日に行われ、翌十九日に開票された。

結果は、高梨公之名誉教授が投票総数三千二百十三票のうち、千二百四十七票を得て再選された。

就任は九月一日で、任期は三年間である。

二期目に入って、高梨総長に創立百周年の行事や教育研究の充実に対する仕事が期待されている。

学部執行部の各担当が交代

執行部各担当の任期満了に伴い昭和六十二年三月二十二日付で、次の各教授が担当に就任された。

（順不同・敬称略）

【学務担当】　門田　定美（水）
水産学科。日本大学農学部水産学科卒。農学博士。担当科目＝海洋学。

【学生担当】　野村　勇（獣）
林学科。九州大学農学部林学科卒。農学博士。担当科目＝林業経済学。

【研究担当】　松坂　泰明（農）
農芸化学科。東京帝国大学農学部農芸化学科卒。農学博士。担当科目＝土壌学。

【広報担当】　今井　清（畜）
畜産学科。東京大学農学部畜産学科卒。農学博士。担当科目＝家畜繁殖学。

【就職指導担当】　勝部　泰次（獣）
獣医学科。東京大学大学院獣医学博士課程修了。農学博士。担当科目＝獣医公衆衛生学。

研究担当
松坂教授

学生担当
野村教授

学務担当
門田教授

就職指導担当
勝部教授

広報担当
今井教授

会長就任にあたり

農獣医学部
校友会会長
庄川　洋一

昭和六十二年は日本大学において、総長はじめ学校法人の役員改選期であり、高梨公之総長が再選され、大学新執行部も選出決定されました。

さらに日本大学校友会も学部部会、地方支部とも任期満了による改選となり、校友会の選考委員に指名され、三十四名の評議員と七名の理事が選出されました。

それに伴い、農獣医学部校友会も役員の改選が行われ、図らずも会長に選出指名されたわけです。

浅学非才であり、その任の重さを痛感しておりますが、推薦されたことでもあり、引受けることとしました。

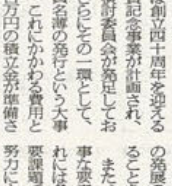
副会長には農芸化学科会長・茂沢　昊、食品工学科　会長・野田義人、農業工学科会長・一川宏也の三氏が選出、就任されました。

また事務局長には、食品経済学科の高坂鉄雄氏が指名されまして、七月十一日の総会を終了後、新役員による発足としたわけであります。

勇退された佐藤弘一会長、西島羽曙、白山巌、鹿野忠の各副会長諸氏には、十有余年の長期にわたり、校友会の発展のためにご尽力を賜わり、深甚なる感謝と敬意を表したいと思います。

昭和二十三年十月、農学部第一回卒業生によって畜産学科校友会（酪農業会）ならびに農業経済学科校友会（いもづる会）が結成され、当時の農学部長であった三浦伊八郎先生が会長となられました。昭和二十六年四月すでに結成されてあった昭和二十二年九月）拓殖科校友会（拓友会）と前記の畜産学科、農業経済学科、耕種学専攻（現農芸化学科）、農産製造学専攻（現農学科）、農業経済学科の有志により日本大学農学部　校友会が結成され、工藤正城氏（拓殖科）が校友としての初代会長に就任されました。二代目には佐藤弘一前会長、そして私が三代目であります。

初代は創立期であり、各学科とも卒業生によって校友会が結成され、分会として次々と学部校友会に加盟した時期であります。その後、徐々に体制が整備されて現在の農獣医学部校友会が出来あがりました。



日本大学校友会も、桜門倶楽部時代から日本大学校友会という全国組織となり、わが農獣医学部校友会も、これに正式加盟をしております。

二代にわたる組織が拡大発実され、現在十二分会・三地方支部・一部会（神奈川県）と、日大校友会の中でも内容の大きさは最たるものと確信しております。また事業・財政面に於いても、毎年総会の席上で、その発展のほうが報告されております。

来年度は創立四十周年を迎えるため、記念事業が計画され、昨年その検討委員会が発足しております。さらにその一環として、校友会会員名簿の発行という大事業もあり、これにかかわる費用として千五百万円の積立金が準備されております。また校友会年誌の発行も、六十一年度より併せて計画されております。

この事業の達成と今後の運営にあたっては、三名の副会長及び事務局員諸氏に事業を分担担当してもらい、万遺漏なきようにしたいと念願しております。

本来校友会は親睦団体であり、会員相互の親睦と向上を図り、日本大学の興隆発展に寄与することを目的としております。特に農獣医学部とは連絡を密にして、学部の発展のためには積極的に寄与することを進めたいと思います。

また、会員相互の親睦がより大事な要素であると思われます。それには各分会・支部の発展が最重要課題であります。会員の協力と努力により発展・充実を期したいと祈念します。

日本大学も六十四年度には創立百周年を記念しての事業が計画され、寄付金も目標額百五十億円の募金活動が展開されることとなっております。

講堂兼体育館が落成

藤沢キャンパスに鉄骨構造の二階建て講堂兼体育館が完成し、昭和六十二年三月二十三日に大学関係者、校友会会長、各分会会長および工事関係者が出席され、竣工式が盛大に行われた。

講堂には、記念品として贈呈した学部校友会の刺しゅう入り緞帳が一際輝き、アリーナの後部には電動格納できる六百二十席を含め二千三百三十席を収容できる。また、トレーニングルームおよび柔・剣道ならできる三カ所の練習場が付設されている総面積七千七百三十七・八六平方メートルの講堂兼体育館である。

藤沢校舎の事務機構が改組

従来、藤沢校舎の事務組織は、事務課の中に各係が置かれていたが、昭和六十一年十一月一日付改組により庶務課（庶務・会計・管財に関する事項）、教務課（教務に関する事項）、学生課（学生・就職指導に関すること）の三課が設置された。それに伴い、事務局の人事異動が実施され、管財課長に河野通教、就職指導課長に藤久保昭氏、藤沢校舎学生課長に宮本隆の各氏が昇任され、同時に藤沢校舎庶務課長に松浦辰寿、藤沢校舎教務課長に恵藤孚の各氏が任命された。また、恵藤孚氏は、昭和六十二年六月六日に、併設高校である藤沢高等学校に事務課長として勤務替えとなった。

日本大学 農獣医学部校友会役員

農獣医学部長 名誉会長	久木田　賢志
会長	庄川　洋一（拓植）
副会長	茂澤　昊（農化）
〃	一川　宏也（農工）
〃	野田　義人（食工）
理事	西鳥羽　曙（農学）
〃	宮浦　敏麿（農学）
〃	坪木　良雄（農学）
〃	江剌　琢磨（農化）
〃	木嶋　弘倫（農化）
〃	田中　延吉（獣医）
〃	日比野次郎（獣医）
〃	長尾　壮七（獣医）
〃	倉田　裕司（畜産）
〃	大橋　昭也（畜産）
〃	中西　五十（畜産）
〃	佐藤　弘一（食経）
〃	三木　敏夫（食経）
〃	伊豫　軍記（食経）
〃	鹿野　忠（林学）
〃	片岡　寛純（林学）
〃	大川富士雄（林学）
〃	添田　秀男（水産）
〃	日野　演彦（水産）
〃	奥本　直人（水産）
〃	吉川　宏一（農工）
〃	辻　厚志（農工）
〃	中村　清一（食工）
〃	青井　幸雄（食工）
〃	岡田　正男（拓植）
〃	木村　正之（拓植）
〃	冨沢　寿樹（短農）
〃	山本　正義（短農）
〃	斎藤　忠雄（短農）
監事	山根　勝次（食経）
〃	川口　武志（獣医）
〃	岩間　脩（畜産）
事務局長	高坂　鉄雄（食経）
庶務	本江　一郎（林学）
〃	世良田和寛（農工）
会計	木村　貞司（畜産）

頑張った就職戦線

協定改訂・円高不況下

—好結果で終結—

昭和六十一年度は十年ぶりの就職協定改訂、男女雇用機会均等法の施行元年。さらには円高による経済不況という、従来と異る採用環境の大幅な変化の中でスタートした就職戦線は、学生は企業研究もできず、先輩の体験もあまり参考にならないモデルケースの就職活動でありました。しかし、意外と順調に推移し、好結果を得て終結いたしました。

本学部への求人件数は、近年の好景気を反映し大幅採用増がある中で、学生は自己の適性、能力に応じた企業研究を進め、活発に就職活動を展開いたしました。

学部の就職指導体制の整備に伴い、就職に対する学生の意識も年々高揚し、徐々にその成果が現われているものと評価してよいのではないでしょうか。今後は、より一層就職先の質的向上を目指して教職員、学生ともども努力を続けていかなければならないと思います。校友諸賢方始におかれましてもより一層のご支援をお願いいたします。

自由応募制のため、六十年度に比べ、企業が約六〇パーセント増の約一万一千五百件でした。

産業別決定状況はグラフのとおりでありますが、決定先に対する志望順位は、第一志望が約六〇パーセント、第二志望が約二六パーセントであり、決定先に対する本人の満足度は当然ながら「大変満足」「だいたい満足」が約八四パーセントになっています。

本年度は、昨年度の協定がさらに修正され、円高不況や貿易摩擦が一段と深まり、輸出関連産業は採用を手控え、内需拡大関連産業の好業績に大幅採用増がある中で、学生は自己の適性、能力に応じた企業研究を進め、活発に就職活動を展開いたしました。

学部の就職指導体制の整備に伴い、就職に対する学生の意識も年々高揚し、徐々にその成果が現われているものと評価してよいのではないでしょうか。今後は、より一層就職先の質的向上を目指して教職員、学生ともども努力を続けていかなければならないと思います。校友諸賢方始におかれましてもより一層のご支援をお願いいたします。

昭和61年度産業別・就職決定状況（数字は%）

農学系志願者急増

学部一万三千百十一名

短大農業科五百九十名

昭和六十二年度は、国公立大学の入試改革の影響もあり、当学部への志願者は学部が二万三千百十一名、短大農業科が五百九十名であった。（一般試験のみ）

本学部への志願者は近年増加傾向にあり、六十一年度の学部平均実質倍率は六・一倍、短大農業科は三・四倍と高い競争率を示した。このことから、農獣医学部への合格は難関であるとの印象を受験生に強く与えたようである。

にもかかわらず、六十二年度の平均競争率は学部が六・五倍、短大農業科が六・〇倍と上昇した。

これは「農学ブーム・先端技術としてのバイオテクノロジー」という社会的動向を反映したものとみることができよう。

いずれにしても、若い受験生の関心が第一次産業及びその関連産業に向いていることの現れであり農学系学部としてうれしい限りである。

応用生物科学科新設

来年4月開設を目途に

時代の要請にこたえるため、昭和60年2月にバイオテクノロジー計画推進委員会が設置され、その後、同委員会で設置検討を重ね、応用生物科学科の教育・研究体制を整備した。昭和60年12月5日の学部教授会で学科新設につき審議了承され、これを大学本部へ上申し、昭和61年9月25日付で承認された。10月予定のヒアリングを控え目下、昭和63年4月開設を目途に学校法人が窓口となり、文部省と折衝を重ねている。

生活環境科（短大）も来春開設を目標に全力

従来の農業科（園芸コース、緑地造園コース、生活環境コース）から生活環境部門を科として独立させ、主として女子学生を対象とした定員百名の生活環境科を新設するものである。昭和60年12月5日の短大農業科の教授会でその新設につき審議了承され、これを大学本部へ上申し、昭和61年1月24日付で理事会の承認を得た。昭和61年10月31日と11月5日に実施された大学設置審議会と私立大学審議会のヒアリングを経て、昭和62年2月2日付で文部省より「不可としない」旨の通知を受けている。

昭和62年9月24日と28日の両日実地視察が予定されているが、目下昭和63年4月開設を目標に全力をあげている。

学部祭

東京・藤沢両校舎で開催

今年の学部祭は、東京校舎（三茶祭）が十月二十四日（土）より二十六日（月）までの三日間と、藤沢校舎（藤桜祭）が十月三十一日（土）、十一月一日（日）の二日間開催されます。

統一テーマは「張りきり過ぎても大丈夫！」と決まり、学部祭実行委では盛り沢山の企画を立てております。

校友諸兄のご来校を、心からお待ちしております。

訃報

前総長の鈴木勝先生が逝去

日本大学前総長・鈴木勝先生は八月五日、肺炎のため、日大駿河台病院で死去された。享年八十四歳。葬儀と告別式は九月二十六日（土）午後一時より、日本大学講堂で、青山葬儀所で執り行われた。

先生は南学部長を経て、総長、理事長を歴任、勲一等瑞宝章を受章された。ここに生前のご功績を讃えて、ご冥福をお祈りいたします。

元学部長の磯辺秀俊先生も

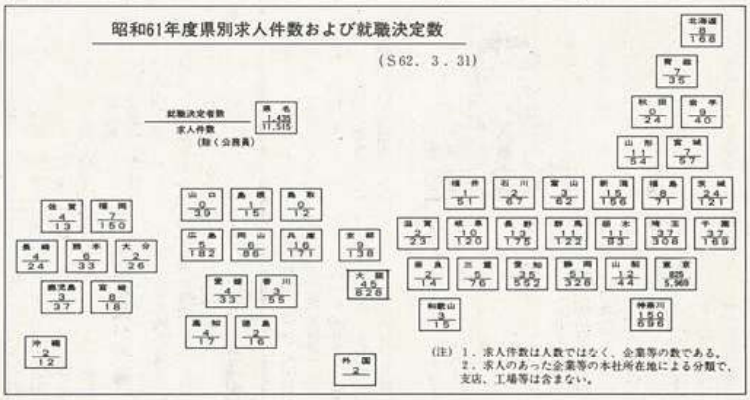
元農獣医学部長磯辺秀俊先生は昨年十月四日すい臓ガンのため、武蔵野赤十字病院で逝去された。享年八十四歳。

先生は、昭和三十七年四月本学部教授に就任され、さらに学園紛争の昭和四十三年に学部長代行となり、翌年学部長に就任、学園の正常化に努力なされた。

ここに先生のご功績をたたえ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

昭和61年度県別求人件数および就職決定数

（S62. 3. 31）



（注）1．求人件数は人数ではなく、企業等の数である。
2．求人のあった企業等の本社所在地による分類で、支店、工場等は含まない。

昭和61年度　日本大学農獣医学部校友会会計決算報告書

（自）昭和61年4月1日
（至）昭和62年3月31日

事務局長　石井　賢治

（収入の部）

科目	予算	決算	差異増減	摘要
[1]前年度繰越金	2,812,773	2,812,773	0	
[2]入金金	20,680,000	20,680,000	0	
1.昭和61年度　入学	19,580,000	19,580,000	0	@10,000×1958
2.昭和60年度　入学	1,040,000	1,040,000	0	@10,000×104
3.昭和57年度　入学	50,000	50,000	0	@5,000×10
4.昭和58年度入学料	10,000	10,000	0	@5,000×2
[3]雑金料了	900,000	978,591	78,591	
[4]その他雑収入	0	0	0	
収入合計	24,392,773	24,471,364	78,591	

（支出の部）

科目	予算	決算	差異増減	摘要
[1]分会交付金	10,346,000	10,346,000	0	
1.昭和61年度　入学	9,790,000	9,790,000	0	@5,000×1958
2.昭和60年度　入学	520,000	520,000	0	@5,000×104
3.昭和57年度　入学	30,000	30,000	0	@3,000×10
4.昭和58年度入学料	6,000	6,000	0	@3,000×2
[2]経費	4,200,000	3,751,638	448,362	
1.入件費	1,600,000	1,557,000	43,000	事務局手当 50,000×4 アルバイト代 75,000×12倍
2.本部分担金	300,000	300,000	0	
3.事務局運営費	700,000	630,918	69,082	入会金教材事務 印刷手の他 理事会・総会その他会合印刷事務 総会・各会合通信 会報発送補助@100,000
4.通信費	1,600,000	1,227,000	372,000	総会・各会合通信 会報発送補助・その他
5.会合費	1,500,000	1,582,230	△82,230	総会補助・その他会合
6.交際費	300,000	318,900	△18,900	部会・分会・支部関係
7.交通費	200,000	131,000	69,000	支部・分会巡回交通費
[3]事業費	6,600,000	3,303,240	3,296,760	
1.在籍補正金	2,500,000	2,500,000	0	5,61年度補正金して
2.会報費	1,200,000	987,860	212,140	第69号40,000部
3.分科委員会運営費	150,000	80,730	67,270	第59号発行に当たって
4.各部委員会運営費	250,000	0	250,000	本年は準備のため委員会で検討
5.記念事業費	500,000	0	500,000	
6.年度号記念金	1,500,000	1,282,650	217,350	61.1評価（3000部）@800
7.年度印刷費補正	300,000	300,000	0	
[4]了編費	1,346,773	737,960	608,813	事務局写製機
支出合計	24,392,773	22,218,638	2,173,935	
次年度繰越金		2,252,726		

付属繰越金 3,702,800（大阪神戸銀行定期）定期繰越金 18,238,340（東銀行定期）年度印刷費補正 300,000（東銀行普通）

昭和62年度　日本大学農獣医学部校友会会計予算案

自昭和62年4月1日
至昭和63年3月31日

事務局長　石井　賢治

（収入の部）

科目	昭和60年度	昭和61年度	差異増減△	摘要
[1]前年度繰越金	2,252,326	2,812,773	△ 560,247	
[2]入金金	17,395,000	20,680,000	△ 3,285,000	
1.昭和62年度　入学	15,500,000	0	15,500,000	@10,000×1550
2.昭和61年度　入学	1,180,000	19,580,000	△18,400,000	@10,000×118
3.昭和60年度　入学	160,000	1,040,000	△ 880,000	@10,000×16
4.昭和59年度　入学	140,000	0	140,000	@10,000×14
5.昭和58年度　入学	400,000	0	400,000	@10,000×40
6.昭和57年度　入学	0	50,000	△ 50,000	
7.昭和56・55年度入学	15,000	90	15,000	@5,000×3
8.昭和54年度　入学料	0	10,000	△ 10,000	
[3]雑金料了	900,000	900,000	0	
[4]その他雑収入	0	0	0	
収入合計	20,547,326	24,392,773	△ 3,845,247	

（支出の部）

科目	昭和60年度	昭和61年度	差異増減△	摘要
[1]分会交付金	8,699,000	10,346,000	△ 1,647,000	
1.昭和62年度　入学	7,750,000	0	7,750,000	@5,000×1550
2.昭和61年度　入学	590,000	9,790,000	△ 9,200,000	@5,000×118
3.昭和60年度　入学	80,000	520,000	△ 440,000	@5,000×16
4.昭和59年度　入学	70,000	0	70,000	@5,000×14
5.昭和58年度　入学	200,000	0	200,000	@5,000×40
6昭和57年度　入学	0	30,000	△ 30,000	
7.昭和56・55年度入学	9,000	0	9,000	@3,000×3
8.昭和54年度　入学料	0	6,000	△ 6,000	
[2]経費	6,550,000	6,200,000	350,000	
1.入件費	1,600,000	1,600,000	0	事務局手当・アルバイト代・他
2.本部分担金	300,000	300,000	0	
3.事務局運営費	700,000	700,000	0	印刷代・他
4.通信費	1,600,000	1,600,000	0	会報発送補助・他
5.会合費	1,800,000	1,500,000	300,000	総会補助・その他会合
6.交際費	350,000	300,000	50,000	部会・分会・支部等関係
7.交通費	200,000	200,000	0	分会・支部巡回交通費
[3]事業費	4,800,000	6,800,000	△ 1,700,000	
1.在籍補正金	1,000,000	2,500,000	△ 1,500,000	
2.会報費	1,200,000	1,200,000	0	第68号40,000部
3.分科委員会運営費	150,000	150,000	0	
4.各部委員会運営費	250,000	250,000	0	〃
5.記念事業費	500,000	500,000	0	講座費分・他
6.年度号記念金	1,500,000	1,500,000	0	@800×1,800
7.年度印刷費補正金	300,000	500,000	△ 200,000	
[4]了編費	398,526	1,246,773	△ 848,247	
支出合計	20,547,526	24,392,773	△ 3,845,247	

付属繰越金 3,702,800（大阪神戸銀行定期）定期繰越金 18,238,340（東銀行定期）年度印刷費補正 300,000（東銀行普通）

監査報告書

昭和61年度決算書について厳正に監査しました結果、適正に処理されていることを認めます。

昭和62年5月28日

監事　山根　勝次
坂野　忍
戸崎　統一

学科	会長	事務局長	会報編集委員	名簿編集委員
農学科	西丸辰雄	鍵原 正行	鍵原 正行	兼平 勉
農芸化学科	荒沢 晃	山本 一郎	有賀 豊彦	横田 裕明
獣医学科	河中 延吉	福田 陽一	白井 弥	吉田 仁夫
畜産学科	曽田 裕司	中西 五十	佐藤 富良	泉水 直人
食品経済学科	佐藤 弘一	伊丹 軍記	下浦 敏治	大矢 祐治
林学科	渡野 忠	鈴木 和郎	井上 公善	塩沢南海治
水産学科	諏訪 秀男	金塚 和宏	広瀬 一美	松宮 直弘
農業工学科	一河 宏也	辻 厚志	石川 義雄	斎藤 公三
食品工学科	野田 義人	青井 幸雄	千野 誠	荒井 安雄
拓植学科	荒川 洋一	早川 治	緒方 利弘	長谷川勝男
短大農業科	冨沢 勇徳	斎藤 忠雄	斎藤 忠雄	鈴木 明夫

日本大学農獣医学部・短期大学部農業科案内

大学院　農学研究科　農学・農芸化学・畜産学・農業経済学・水産学・農業工学・食品工学の各専攻
獣医学研究科　獣医学専攻

大学　農・農芸化・獣医・畜産・食品経済・林・水産・農業工・食品工・拓植の各学科

短期大学部　農業科

昭和63年度　入試科目・期日

学部	昼・夜	学科	入試期日	入試科目
農獣医学部	昼	獣医・農業工・食品工	2月14日(日)	数学—「数学1、数学II」、「数学1、代数・幾何」、「数学1、基礎解析」 理科—「数学1、微分・積分」、「数学1、確率・統計」のうちから1科目選択 理科—「理科1（物理の分野）、物理」、「理科1（化学の分野）、化学」、「理科1（生物の分野）、生物」のうちから1科目選択 外国語—英語1、英語II
		農学	2月14日(日)	国語—「国語1、国語II」、「数学1、数学II」、「数学1、代数・幾何」、「数学1、基礎解析」 数学I—「数学1、微分・積分」、「数学1、確率・統計」のうちから1科目選択 理科—「理科1（物理の分野）、物理」、「理科1（化学の分野）、化学」、「理科1（生物の分野）、生物」のうちから1科目選択 外国語—英語1、英語II
		農芸化学・畜産・林学・水産	2月17日(水)	
		相撲	2月14日(日)	国語—国語1、国語II 社会—日本史、政治・経済、地理のうちから1科目選択 外国語—英語1、英語II
		食品経済	2月17日(水)	
短期大学部	昼	農業科	3月7日(月)	国語—「国語1、国語II」、「数学1、数学II」、「数学1、代数・幾何」、「数学1、基礎解析」 数学I—「数学1、微分・積分」、「数学1、確率・統計」のうちから1科目選択 理科—「理科1（物理の分野）、物理」、「理科1（化学の分野）、化学」、「理科1（生物の分野）、生物」のうちから1科目選択 外国語—英語1、英語II

[授業教育]
○農・獣医・畜産・農業工の4学科及び短大農業科は春沢校舎
○農芸化・食品経済・林・水産・食品工・拓植の6学科は1年次だけ藤沢校舎、2年次より東京校舎。

獣医学部の応用生物科学科と短期大学部生活環境科は、63年4月開設の了定で文部省に認可申請中です。

★入試関係についての照会は
（〒154）東京都世田谷区下馬3-34-1
日本大学農獣医学部入試事務室へ

議案は満場一致で承認

総会に代る幹事会を本学部藤沢校舎で開く

農学校友会

◇農学科◇

昭和六十一年度の総会は、昨年十一月十五日に本学部藤沢校舎第二食堂において、総会に代る幹事会として開催され、前年度の一般経過報告、会計決算と六十一年度の予算案審議が行われ、満場一致で承認されました。

また、来年度は四年に一度の、幹事・役員改選の年に当りますので、会員に呼びかけ、日大会館で総会及び懇親会を開催することが決定されました。

名簿の発行

校友の皆様のご理解あるご協力によりまして、一九八六年度版名簿の印刷を予定通り十一月末迄し、十二月初旬に皆様のお手許に発送いたしましたので、年賀状等にご利用いただけたものと存じます。何とぞ今後とも、財政面でのご協力をお願いいたします。

執行部と校友たちの懇談会開く

学部当局は、入学対策の一環としまして、現在高等学校教諭をされておられる校友を招き、本年八月二十日懇談会を開催いたしましたが、他学科に比べ農学科卒業の校友が最も多く、二十数名の方々が出席され、活発な意見が出され、成功裡に終了いたしました。また、翌二十二日には、ご多用中にもかかわらず、約十名の方が、農学科教員との展覧会にご出席され、相互の懇親を深めることができました。

◇◇学科内の現況◇◇

学生の研修旅行

本年も約一六〇名の新入生を通えて、学科教員一丸となって教育に当っておりますが、五月には新入生約一二〇人が、教員とともに熱帯植物の見学と懇親を兼ね、一泊二日の日程で伊豆研修旅行に、また二年次学生は茶を中心にして静岡県の農業事情の研修に参りました。三年次学生は前期授業修了後の七月末、長野県、群馬県の高冷地野菜栽培の見学に行き、それぞれ成果を上げて参りました。

新入生の伊豆見学旅行（本学下田臨海実験所で）

教員の昇格

米田和夫助教授（花井園芸学研究室）と藤山嘉一助手（畜産学研究室）のお二方は、四月一日付けでそれぞれ教授および専任講師に昇格されました。心からお慶び申し上げますとともに学科発展のため一層のご活躍が期待されます。

学位の取得

兼平勉専任講師（植物病理学研究室）は多年にわたる研鑽の功成って、昨年の十月「イネ科植物黒穂病に関する病原学的ならびに病理学的研究」により、東京大学より農学博士の学位を授与されました。心からお祝い申し上げます。

留学関係

昭和六十年度日本大学長期海外派遣研究員として、昨年三月末より、カリフォルニア大学農学部に一カ年滞学いたしておりました藤井秀昭専任講師は所期の成果を上げられ、本年三月末、無事帰国いたしました。一年間本当にご苦労様でした。

（篠原正行）

キャメリア・アパートの思い出

藤井秀昭

『キャメリア・アパート』……。懐しい響きをもつこのアパートは、筆者が昭和六十年度日本大学海外派遣研究員（長期）として入国したその日から、出国する日までの一年間を過したカリフォルニア州テーレスのーストリートにあるアパートです。二ベッドルームで月三百九十五ドル。ほかより五〇―一〇〇ドルくらい安いとあって、十二部屋三棟からなるこのアパートはいつも満員でした。

私達の部屋は西向きで、真夏の夕方のドアの表面温度が七十度。クーラーはあるものの音ばかりで効果は薄く、寒暖の変化をクラフにし、管理人に話しても、正常だと言う。湿度が低いこともあって カラッとしたアッサリ食後は毎日経験することになり、ほとんどは時くなるまで庭で過しておりました。

多種多様の国・人と知合いになれたのもこのアパートでです。幸い幸いキムチをよくご馳走してくれた韓国放送通信大学の安教授の家族。

八代亜紀を「美人」と言い、即興でテープに合わせ、バイオリンを弾き、水割り一杯で「ねむくなった」と帰る前中鬼だらけのアイオウ出身、醸造学専攻の鶴宝、ジャック。

子供が騒いで床を壊したとき、不明な言葉で怒鳴り込んできたメキシコ人の家族。

アンチ巨人の筆者に、巨人のことばかり聞く立川にいたという車人の家族。

車の修理を手伝ってくれた開発移住専攻のトム。

クッキーをよく焼いてくれたミセス、サブマネージャー。この人は、アメリカ人には珍しいくらいにきれいな肩をしており、特に、夕食後の両家族合同キャッチボールの後の肩は、ピンク色に染って実にきれいでした（昼間れた部分しか見れなかったのが残念ならいです）。

ケーキ・クッキーのおし売り、新聞の勧誘、キリスト教へのおそいなど、いろいろありました。

そして、おそらくは、今後は絶対にないことでしょうが、豊富な果物を毎日食べられたのも、このアパートでです。「日本では出来ない」から写真にとっておいて、友達に見せる」ということで記念撮影。

写真は、実験終了後も帰ったチェリーとの記念撮影です。

休日は、よく出かけ、時速一〇〇キロメートル以上でフリーウェイを長時間走り、アパートの駐車場に車を入れると、今回も生きて帰れたことを実感として感じさせる場所でもありました。プール付き長屋的で、特に肩を凝ることもなく、気楽に過せたアパートでした。しかし、そんなアパートにも警察官が拳銃を構え、ドアをノックする事件が二度もあり、現代アメリカの二面を見せてくれたアパートでもあります。

「また、いつでも来い！来る日には、部屋を用意しておく」と言って見送ってくれた管理人夫妻、我々が、また、『キャメリア・アパート』を訪問する日まで、お元気で！

小生の留学に際し、西局羽会長はじめ、多くの会員の方々から数々の暖いご支援をいただきました。記して感謝の意を表します。

チェリーとともにポーズをとる筆者の子ども

柴友会

◇農芸化学科◇

会員の皆様にはますますご健勝のことと拝察し心よりお慶び申し上げます。お陰さまで本会も順調に発展し、今や四〇〇〇名を優ぐ会員を擁し、資金約二六〇〇万円、年間予算約一八〇万円で運営されており、一学科の校友会親睦団体としては、極めて健全な状態で経営されているものと自負しております。これも一重に、会員の皆様をはじめ、旧会長、事務局担当者らの努力の賜物と感謝の念に堪えません。

さて、一応このように運営基盤が確立された現在、会員の皆様に、会員の皆様にはますますご健勝のことと拝察し心よりお慶び申し上げます。お陰さまで本会も順調に発展し、今や四〇〇〇名を優ぐ会員を擁し、資金約二六〇〇万円、年間予算約一八〇万円で運営されており、一学科の校友会親睦団体としては、極めて健全な状態で経営されているものと自負しております。これも一重に、会員の皆様をはじめ、旧会長、事務局担当者らの努力の賜物と感謝の念に堪えません。

さて、一応このように運営基盤が確立された現在、会員の皆様に、より一層親しまれ愛される会を目指すことが理事会および執行体に求められております。会員数は五十六年卒以後の会員は一〇〇%近い状態で納入が行われておりますが、それ以前の会員では三〇%程度で、ある茶年次では一〇%以下というところもあります。この原因の一つとして名簿上の「不明者」がかなりの数に達していることが挙げられます。したがって名簿の完全性を一層高めることが今後さらに増加し続けることが予想され、また一方では絶対の少なからぬ上昇を見込まねばならぬ状勢の中で、どのように運営されるべきか皆様とともに考え、解決して行きたいと考えております。

その一つに、終身会費の完納を目指す努力が必要と思われます。

会則立三〇年を祝う総会・懇親会は多数の方々が参加され、盛大に賑わったものの、最近の総会・懇親会はいささか寂しい感じがします。どのようにしたら多数の会員の方々にご出席いただけるかが目下、理事会などで検討されています。開催時間および開催間隔の問題や、総会・懇親会に先立ち、学科教員および校友によるセミナーの開催など、いくつかの案が練られています。また、現行の会則を一部変更して、各研究室運営委員会の選任と理事会の増員、代議員の役割変更および事務局機構の改革などを行いたいとも考えております。その他、会運営の簡素化、能率化などを求めて幾つかの変更が検討されました。本会会員約三千名の出席を得て行われた総会は、山本事務局長の司会により進行し、茂澤会長の挨拶の後、木鳥副会長を議長に選出、経過報告、会計報告など滞りなく進行した。会員名簿の懇親会はいささか寂しい感じがします。どのようにしたら多数の会員の方々にご出席いただけるかが目下、理事会などで検討されています。開催時間および開催間隔の問題や、総会・懇親会に先立ち、学科教員および校友によるセミナーの開催など、いくつかの案が練られています。また、現行の会則を一部変更して、各研究室運営委員会の選任と理事会の増員、代議員の役割変更および事務局機構の改革などを行いたいとも考えております。その他、会運営の簡素化、能率化などを求めて幾つかの変更が検討されました。本会会員約三千名の出席を得て行われた総会は、山本事務局長の司会により進行し、茂澤会長の挨拶の後、木鳥副会長を議長に選出、経過報告、会計報告など滞りなく進行した。会員名簿の作成、ファイル化の問題点が前年に引続いて話題となった。閉会後、同会館地下食堂において懇親会が行われた。校友会関係の方々や当科教授の先生方をお迎えし、総勢五十余名の出席のもと、加藤顧問（事務局）の司会で、会長の挨拶、佐藤弘二校友会長のお言葉、丸尾文治学部次長、石井謙二学科主任などのご挨拶をいただいた。乾盃の発声は当科教授の大村政先生によって、元気に行われた。

（有賀豊彦）

紫友会の今後に向けて

事務局長　山本一彦

紫友会総会

日本大学会館で

紫友会の定例総会は、十一月一日午後五時から日本大学会館で開催されました。本会会員約三千名の出席を得て行われた総会は、山本事務局長の司会により進行し、茂澤会長の挨拶の後、木鳥副会長を議長に選出、経過報告、会計報告など滞りなく進行した。会員名簿の作成、ファイル化の問題点が前年に引続いて話題となった。閉会後、同会館地下食堂において懇親会が行われた。校友会関係の方々や当科教授の先生方をお迎えし、総勢五十余名の出席のもと、加藤顧問（事務局）の司会で、会長の挨拶、佐藤弘二校友会長のお言葉、丸尾文治学部次長、石井謙二学科主任などのご挨拶をいただいた。乾盃の発声は当科教授の大村政先生によって、元気に行われた。

（有賀豊彦）

日本大学会館での懇親会

日本農芸化学会が本学で盛大に挙行

日本農芸化学会昭和六十二年度大会は、四月一日から四日まで、当科の窪岡治義教授を大会実行委員長として、本学世田谷キャンパスにおいて、全国から五千余名の参加を得て盛大に開催された。当会を本学で行うのは初めてであったが、農芸化学科の教員をはじめ学生の協力を得て、シンポジウム、一般講演など多数の研究発表が滞りなく進行した。同時に行われた展示会には百余社からの出品があり、隣の明治薬科大学の体育館を借りて、やっと収容するという盛況ぶりであった。参加者数、発表演題数、出展数ともに当会史上最大であったという。

奥、中嶋両助教授カナダへ留学

当科生物化学研究室の奥、忠武助教授と、醗酵化学研究室の中嶋聴安助教授は、それぞれ、この三月、四月に カナダへ半年間の予定で留学した。

奥氏はオタワの国立研究所でカビの多糖分解酵素に関する研究を行い、中嶋氏はバンクーバーのブリティシュコロンビア大学で食用植物と微生物の相互作用に関する研究を行う。

両氏ともに約一カ月の期間延長が許され、帰国は本年末になる予定。

◇学科の動き◇

【入学・卒業】　農芸化学科には今年も二千六百四十五名の受験生が集中し、うち百四十一名の英才達が見事に難関を突破して入学した。ここ数年来のバイオブームを反映して親卒率は漸化する一方である。一方、今春の四年生の就職状況をきわめて良好で、一人で数社から内定をもらった学生も出てある。業種別では食品、化学関係の製造業が最も多い。

【人事】　丸尾文治教授（有用菌学研究室・学部次長）は五月に定年退職された。先生は、なお引続き学部顧問として、科からは離れるものの在職される。当科では六月に教員による丸尾先生の送別会を開いた。有用菌学研究室では丸尾先生が赴任された昭和五十三年以降現在まで二指導を受けた卒業生、在学生をご一五〇名による謝恩会が盛大に行われ、過去九年間のご教示に対し感謝の意を表した。

副手の乾慶孝氏は、二年間の任期を終え三月付で退職された。

【採用人事】　この四月一日付で次の四名の方々が採用された。

高橋武美教授（当科所属・総研教授）、高橋令一助手（有用菌学研究室）、砂入道夫助手（醗酵化学研究室）、田中純子副手（生化学研究室）。

高橋教授は東京大学理学部教授で、天然有機化学講座を定年退職後赴任された。高橋（令）助手は昭和五十九年当科大学院修士課程を出られた後、製薬会社研究所に勤務。このたび当科に戻られた。砂入助手は、昭和六十一年東京大学農芸化学科博士課程終了の後、国立予防衛生研究所細胞免疫部で研究されていた。田中副手は、この春の当科卒業生で、乾副手の後任として採用された。

高橋武美教授

丸尾文治教授

田中　純子氏

砂入　道夫氏

高橋　令二氏

角笛会

◇獣医学科◇

62年度角笛会総会を開催

六十二年度総会が、五月二十三日午後二時から四時まで、二時間にわたって東京校舎で開催されました。今回は六十四名の会員が出席、議長に押田　等氏（福島県）が選出され、活発な議論が行われ次のことが決まりました。

①支部未設置県は速やかに組織化するよう要請する。

②支部役員名簿を整備し各支部に配布する。

③支部会費の納入を促進する。

④角笛会報三号は十月二十五日発行、農獣医学部校友会報は十月中に発送する。

⑤会員名簿を発行するため、支部並びに同期会を通じて会員動態を把握する。

⑥角笛会創立八十周年記念式典・祝賀会を、十一月二十三日に藤沢校舎で開催する。

⑦役員任期特別延長。六十二年三月で任期満了、改選の時期であるが、角笛会創立記念事業を準備中のため、特例として二年間、任期を延長する。

角笛会創立80周年記念行事内容決定

六十年度角笛会総会で、八十周年記念実行委員会の設置が了承されて以来、同委員会は回を重ね検討してきましたが、八月二十二日の会合で、記念式典、同祝賀会、記念事業などが、次のように決定しました。

①記念式典は十一月二十三日午後一時～二時、式場は藤沢校舎第二講義室の祝賀会は同日午後二時三十分～四時三十分、会場は藤沢校舎第二食堂。懇②招待者は学部長初め六十三人④記念誌は三千者五百部発行、賛同者、学生、招待ほか他大学などに配布⑤記念品は賛同金二口以上をお祝賀会参加者に配布⑥角笛会功労者には感謝状と記念品を、また親子三代にわたる角笛会員と親族五人以上角笛会員などに、表彰状と記念品を授与の記念植樹――を予定。

会員の皆様のご賛同、ご協力をお願いします。

大森教授が退職

大森常教授は、去る五月十三日付で定年退職されました。先生は岡山県出身で東京帝国大学を卒業。家畜衛生試験場、日本生物科学研究所等を経て、昭和五十七年四月から日本大学教授に就任、小堀道先生の後任として獣医伝染病学を担当されました。この間、先生は学部教授会の研究担当の要職につかれました。また、同五十九年四月二十九日に紫綬褒章を受章されました。なお、先生は同六十三年三月まで非常勤講師として伝染病学の講義をされます。

先生のご健勝と今後ますますのご活躍を心から祈ります。

先生は退職するにあたり、記念講演を去る六月十八日（木）、午後二時四十分より藤沢校舎第一講義室で行われ、多数の学生、教職員が聴講し、盛会でありました。先生のご健勝と今後ますますのご活躍を心から祈念します。

小原甚三教授も

小原甚三教授は、この六月十八日付で定年退職されました。先生は青森県出身で東京帝国大学を卒業。家畜衛生試験場に勤務。その後昭和四十一年六月より五年間FAO派遣職員として、ビルマ国立獣医畜産大学の家畜生化学講座担当。同四十六年に帰国、山口大学農学部教授を経て、同五十六年四月より日本大学教授に就任し、獣医生理化学を担当され、この間農獣医学部研究報告編集委員会委員長としてご活躍されました。なお、先生は同六十三年三月まで非常勤講師として教鞭をとることになっています。

先生は退職するにあたり、記念講演を去る六月十八日（木）、午後二時四十分より藤沢校舎第一講義室で行われ、多数の学生、教職員が聴講し、盛会でありました。先生のご健勝と今後ますますのご活躍を心から祈念します。

新入生の歓迎会

藤沢市湘南海岸で

この五月二日（土）午前十時より数時間にわたり、藤沢市湘南海岸において、獣医学科新入生歓迎会が開催されました。参加人員は学生二三八名、教員三三名で、バーベキュー、焼肉網など、取れた魚を刺身や天ぷらにして舌鼓を打った。また、ボール投げなど簡単なスポーツをやり、十分に親睦の成果をあげたようです。

砂浜でのバーベキューを楽しむ

夏期牧場実習

二年生二五名が参加

獣医学科二年生は、七月十九日（日）から約一カ月間にわたり、北海道の酪農牧場を中心に牧場実習を行った。本実習は毎年恒例となっているもので、今年は北海道の中標津町、別海町、標茶町、八雲町および別別町で二四名、岩手県大東町で二四名、山梨県八ケ岳牧場で九名、さらに日大付属農場で一九名が実習を行った。

なお、引率者は曲尾久尊任講師、高木青助手の先生方です。

アメリカでの夏期セミナー参加

大学院獣医学研究科

カリフォルニア大学デービス校（七月十七日より七月二十日まで四日間）と、ワシントン州立大学（七月二十二日より七月二十九日まで七日間）で臨床に関する講義と実習が実施されました。引率の先生は、武石昌敬獣医学科主任を団長として、以下渡辺賢助教授、番英一助教授、門井幸助教授、大場茂吉専任講師、佐藤常男専任講師、後野隆司専任講師、木村順平助手、金山喜一助手、直井昌之助手、丸山総一助手、の方々で、有志学生五十五名が受講し、修了後、無事帰国しました。

東京獣医畜産学会開く

11月22日に

日本大学農獣医学部　藤沢校舎で

今年度の東京獣医畜産学会は以下の内容で開催されます。

期日＝十一月二十二日（日）

会場＝日本大学農獣医学部藤沢校舎、藤沢市亀井野一八六六

電話〇四六六（八一）六二四一

学会長＝岡野真臣教授

担当学会長＝武石昌敬教授

実行委員長＝白井　弥教授

一般講演は二十題で基礎・応用系と臨床系の二会場で行う。

特別講演は「獣医公衆衛生からみた二十一世紀を通して」李元鎬教授（大韓国建国大学校内科学）が講演されます。その他、仮題として、レトロウィルスに関する講演、最近の皮膚疾患の症例についてなどが準備されています。多数の先生方のご参加を願っております。

津城　宏氏の逝去を悼む

津城　宏氏

津城　宏氏（昭和九年卒、佐藤製薬）は、去る七月二十二日、悪性細網症のため逝去されました。氏は獣医師として義勇、県職員として貢献され、また佐賀県角笛会支部長をされ、角笛会の発展に尽力くださいました。享年七十四歳。

謹んでお悔やみを申しあげるとともに冥福をお祈りします。

（白井弥）

勲四等瑞宝章

岩渕先生　教育と社会スポーツの功績

叙勲受賞の岩渕孝尊先生

岩渕孝尊先生（昭和十年卒、現岩手県角笛会支部長）は、春の叙勲で勲四等瑞宝章を受章された。これは教育と社会スポーツについての功績によるものです。先生は昭和二十二年より農業高校の教諭となり、教頭、校長などを歴任。同四十八年に退職され、その間乗馬部を育成指導し、地域の子ども中一般の人への乗馬指導も行ない、会員を集い日本馬術連盟に加入された。なお、現在日本馬術連盟理事、岩手馬術連盟会長、岩手県畜産振興協組合理事長などの要職にあります。先生は真面目で、曲ったことの大嫌いな性格で非常に思いやりがあります。根からの馬好きで、馬を離れては岩渕孝尊はないといってもよいほどそうです。先生のご健勝と今後ますますのご活躍を心から祈します。

満喜葉会

◇畜産学科◇

会長に倉田裕司氏

満喜葉会総会　新役員が決まる

昭和六十二年五月九日午後一時から、日本大学会館（八〇一号室）で昭和六十二年度満喜葉会総会が開催された。

まず、白山会長の挨拶により開会し、さらに、会則により白山会長が議長に選出され議事が進行された。六十二年度日本大学満喜葉会事業経過報告が事務局長から行なわれ、これが承認された。次に事務局からの昭和六十一年度の諸寄会の一般および特別会計報告があり、さらにこれについての会計監査結果の報告があり、これらが承認された。引き続いて、昭和六十二年度の事業計画案および予算計画が提案され、審議され、承認された。また、役員改選について審議され、新しい役員が選出が行われ、新役員には次の人達が選出された。（敬称略）

会長　理事　倉田　裕司（25年卒）

副会長理事　大橋　昭也（26）
〃　〃　蔵田　良則（33）
〃　〃　秋元　美治（34）
〃　〃　佐藤　昌介（23）
〃　〃　森田　昭（24）
〃　〃　宮川　正和（25）
〃　〃　斎藤　久典（26）
〃　〃　平田　芳弘（27）
〃　〃　松田　辨（28）
〃　〃　斎藤　光正（30）
〃　〃　長野　實（31）
〃　〃　岩間　修（36）
〃　〃　山本木二男（36）
〃　〃　内田　駿一（38）
〃　〃　松田宇一郎（41）
〃　〃　飛鳥井光治（42）
〃　〃　太田　宏則（43）
〃　〃　杉山　哲郎（48）
〃　〃　萩野　紀行（51）
〃　〃　田島貞次郎（26）
会計監事　井上　貞夫（34）
〃　〃　奥　忠郎（36）

日本大学会館で行われた記念式典

創立40周年記念式典
日本大学会館で挙行

功労者へ感謝状の贈呈も

満喜葉会の創立40周年記念式典が、昭和六十二年五月九日に、日本大学会館において行われ、卒業生・来賓など、約二百名が参加した。式典はまず、関会の辞に始まり、会長　白山　巌氏の挨拶の後、久木田賢志農医学部長・佐藤弘一農獣医学部校友会会長・久恒真佐夫日本大学校友会事務局長から祝辞をいただいた。ひき続き功労者の表彰が行われた。表彰された諸氏は帝産学科並びに満喜葉会の発展に功績のあった方々で、福島正次、森本　宏、大西靖彦、中條誠一、長野　實の各氏であった。なお福島正次、中條誠一の両先生はご都合で欠席された。この40周年記念式典は満喜葉会発展の大きなステップとして、50・60周年へと繋ぐものと期待される。参加された会員諸氏も会の過去、現在、未来への流れと期待を感じられていたものと思われる。

祝賀会で歌う出席者たち

記念式典での功労者表彰

祝賀会も盛大に

満喜葉会40周年記念式典に引き続き、祝賀会が行なわれた。新会長・倉田裕司氏、前会長・白山　巌氏の挨拶、そして前帝産学科主任教授であった大西靖彦先生、帝産学科主任・長野實先生が祝辞を述べられたその後、祝賀に入り、同期生報・後輩が旧交を温め、近況の交換。恩師との再会に、会は大いに盛りあがり、時の過ぎるのも忘れた。最後に久木田賢志学部長の万歳三唱、平田武典長の挨拶で記念すべき創立40周年の祝賀会の幕が閉じられた。

日本大学畜産学科40年史と満喜葉会創記念号を発刊

満喜葉会創立四十周年記念事業の一環として進められていた「日本大学畜産学科四十年史」と「会員名簿記念号」が発刊され、五月九日の式典参加者に配布された。今後、希望会員に頒布される。

◇学科の動き◇

本年度、学科主任および専攻主任が改選され、学科主任として長野實教授が、専攻主任には柴田章夫教授が担当されることになりました。

本学科・今井　清教授は、三月二十一日付をもって学部教務部広報担当に就任されました。

佐藤嘉兵専任講師は、四月一日付をもって助教授に昇格され、また、増田哲也助手も同日付をもって専任講師に昇格されました。同先生は学科の中堅としての今後の活躍が期待されます。

本年四月一日付をもって北村征生氏（四十七年卒業）が助教授として就任されました。担当される科目は、植物生態学及び栽培原論、畜産立地論で、さらに、拓殖学科の熱帯畜産論も担当される。

松本久美子副手は任期を終えて三月三一日付をもって退職されました。新たに、本年度当学科を卒業された高田裕子さんが四月一日付で採用されました。

海外留学関係では、日本大学海外派遣研究員（長期）として小牧弘助教授がオーストラリア、ニューイングランド大学のドナルド・A・レンング教授のもとに留学され研究に従事される。大きな成果が期待されます。

就職懇談会開催

畜産学科の三・四年次を対象として、例年開催されている学外講師による就職懇談会が、昭和六十二年五月二十九日午後一時から、藤沢校舎第一講義室において開催された。本年度は「我が国の畜産諸領域の現状と展望」とのテーマのもとに、講師として、農水省畜産試験場場長・森地敏樹、神奈川県農政部畜産課長（代）・先崎史人、家畜改良事業団専務理事・堀力、食肉市場共同（株）専務取締役・水野良孝、日本家禽学会副会長・麻生和荷、（株）エーザイ・安藤正紀の各氏をお呼びして講演が行なわれた。

新入生歓迎会

恒例になっている新入生歓迎会が、昭和六十二年五月二十三日藤沢校舎で行なわれた。あいにくの天候で恒例のスポーツ大会は中止されたが、午後から第二食堂において新入生・上級生・教員・満喜葉会役員をはじめ諸先輩を混じえて懇親会が開催され、大いに盛り上りを見せた。

（佐藤嘉兵）

いもづる会

◇食品経済学科◇

佐藤会長を再選

40周年記念事業計画も決定

昭和六十二年度総会や懇親会は、七月四日（土）久木田学部長ほか多数の来賓の臨席を得て神田の学士会館で盛大に開催された。席上、佐藤会長ならびに校員会員の再選を満場一致で決議した。

また、永年にわたり本会事務局長として会の発展を支えてくられた高知事務局長が、学部校友会事務局長に就任されたため、これを機会に事務局体制を一新した。新事務局は次のとおり。

事務局長　伊予軍記
事務局次長　上野恒雄
庶務企画　宮村満之、金子和校、荒井美織
一般会計　斉藤武至
特別会計　木島　実
名簿　大矢裕治
広報　下渡敏治

いよいよ来年は会結成40周年、その準備も着々とすすんでいるが、来年の記念事業には多数の校友のご参加をお願い申しあげます。（下渡記）

（上）は浅間温泉うつくし荘で開かれた長野支部設立総会出席者たち（下）はホテル土佐観光での高知支部総会の出席者たち

長野・高知両支部で総会を開催

長野県支部設立総会が行われたのは、六十一年九月六日（土）、松本市浅間温泉うつくし荘においてであった。大学から高坂鉄雄助教授、いもづる会会長佐藤弘一氏をお招きすることができ、感謝と感激でいっぱいであった。頭初二十名近い参加の予定が、当日は、横山竹男会長ほか十余名の出席のもとに一泊して実施した。

自己紹介の後、発足にあたっての経過報告、大学の現況、いもづる会の状況などを、くわしくお話いただき、なごやかな総会であった。

なんといっても、初めての会員もいて、お互いに現在の様子を知り合うのに時間をかけた。県下には、会員数五十九名、就職状況は七期＝二〇期＝教員と県庁職員、自営業一六％、二二期＝三四期＝市場、市役所・農協四一％、三五期＝三九期＝百貨店・青果市場・四三％となっている。四先生からは、いもづる会員の増加、食品経済科の学生の現況、各県のいもづる会の現状報告、終身会費の納入状況など細かい説明があり、夜がふけるのも忘れて懇親をもつことが出来た。

長野支部のために、ご臨席くださった四先生のご健勝を心から感謝申しあげ、ますます母校が発展することをお祈り申し上げます。

（事務局長・外谷俊男記）

× × × ×

昭和五十三年八月にいもづる会高知県支部が発足して、今年で十周年を迎えます。

設立当初は学生の保護者の要請もあって支部の結成となり、毎年夏休みを利用して総会を開催し、高知へ先生方にお越しいただき、学生と父兄の懇談会をもつ一方、卒業生との懇親会をもってきました。

以来、十周年を迎えるにあたり学生数が減少をする中で総会への参加者も漸次少なくなって、十周年を一つの節目と考えるようになってきました。こうしたときに、何か新しい企画が必要ではないかとの提案をうけて、昨年第九回目の総会が開かれました。以下、その経過概要を報告して、高知県支部の便りとします。

昭和六十二年八月三日（日）ホテル土佐観光で総会開催、安岡支部長のあいさつにはじまり、大学側を代表して来光先生から学生ならびに大学の動きについて報告をいただいた。つづいて、いもづる会事務局を代表して、高坂先生からいもづる会の現況報告があり参加者全員による自己紹介のあと協議を行った。

1、昭和60年度活動報告と収支決算について原案通り承認

2、昭和61年度活動方針について

①総会開催による会員相互の親睦

②会員名簿の作成

③さつき鳴子踊りへの参加と支援について決議

3昭和62年次、十周年記念行事について提案

①いもづる会高知県支部の大会に校友をお招きして、大会に参加をしていただくとともに、大会後に市内はじめ四国島内の観光を実施する。

②農獣医学部校友会高知県支部の結成を提案各分会へ積極的に働きかけをしてゆく。

以上の2点を決定し、なごやかなかにも懇親会に移り、第十回記念大会の成功を期して閉会した。

なお、第十回大会の日程などは後日決定になる。（古谷真記）

ハワイ寸描

＝ハワイ大学に留学して＝

食品経済学科専任講師　上野　恒雄

食品経済学科の上野です。私は昭和六十一年度日本大学中期海外派遣研究員として、三月十四日に日本を出発し、八月末日までの予定で、ハワイ大学熱帯農業・人的資源学部農業・資源経済学科に籍を置き、日系二世のHIROSHI YAMAUCHI教授の指導のもとに、資料収集や調査を行ったり学科の研究会に出席したりしています。

YAMAUCHI教授（中央）と（同教授研究室前で）

大学のスタッフの人達はみんな明るくて、親切な人ばかりで、小生を心より歓迎してくれています。

ハワイはご存知の通り多民族で形成されている社会ですが、その中でも日系人が人口の約三％を占めており、いたるところに日本の生活習慣が見られ、スーパーには豆腐、納豆をはじめとする多くの日本食品が見られ、また七月には各地で盆踊りが行われていました。したがって、街を歩いていても日本語が精構通用するので、日常生活は便利です。

そして、日本人観光客が多いということは知っていましたが、ハワイ大学の売店にまで、多勢の日本人が買物に来ているのには、大変驚きました。

学科の近況

新井美織副手

島津新主任、新井副手のご活躍に期待したい。（下渡敏治）

本年四月より新しい学科主任に島津正教授が選任された。また事務局の山口俊子副手が任期満了にともない辞職され、後任に新井美織さんが副手として採用された。

林学科分会

◇林学科◇

林学校友会長賞が発足

第1回は須田君ら5人

昭和六十一年度卒業生より、学業・人品ともに優秀で、林業関連へ就職する者（ただし特待生を除く）に対して、各コース一名計五名を学科教員が推薦し、卒業式時に林学科校友会会長が表彰する校友会賞が発足した。

初年度第一回は、森林生産コースより須田俊一君（埼玉県庁）、林業経営コースより正木敏政君（林業経営）、森林工学コースより佐々木貴史君（岩手県庁）、木材工学コースより今瀬伸一君（三井木材工業）、緑地保全コースより押田昌敏君（森林開発公団）がそれぞれ選ばれ、賞状並びに記念品が授与された。今後、授賞者に対し、林業界での活躍と校友会の発展に寄与してもらいたい。

森林生産コースの須田俊一君

林業経営コースの正木敏政君

森林工学コースの佐々木貴史君

木材工学コースの今瀬伸一君

緑地保全コースの押田昌敏君

学科の動き

一昨年定年退職された梅田三樹男先生の後任として、森林工学研究室教授に鯉渡寛工先生が採用された。先生は砂防工学、森林土木学、土質力学、その他各種講習と幅広い分野で学生の教育・指導にあたられる。

在学生の勉学については、例年通り行われており、特に見学実習が増えている最近、校友諸兄の協力のもとに、年々充実したものとなっている。

石垣専任講師は、昭和六十一年度日本大学中期海外派遣研究員として、今年一月よりオレゴン州立大学（アメリカ）へ留学中であり砂防工学に関する多大の成果を上げられ、また、堀沢専任講師は、昭和六十二年度日本大学中期海外派遣研究員として、来年三月よりフライブルク大学（西ドイツ）へ留学予定である。

62年度入試結果

昭和六十二年度入学試験は去る二月十七日に実施され、林学科志願者数は昨年をさらに上回り、千二百名を突破し、このうち百六十五名が入学した。今後しばらくこの傾向は続くものと予想される。この結果、優秀な学生が卒業するものと思われるので、校友諸兄のますますのご指導をお願いする。

62年度 総会と懇親会

多くの来賓・校友が出席

昭和六十二年度総会並びに懇親会が、去る七月四日日本大学会館で開催された。今回は、林学科第一期生卒業以来三十五周年に当る記念すべき会であり、学部執行部、各分会長ら多数の来賓と校友約百名の参加があった。五時からの総会では、席分会長の挨拶に始まり、議事に移り、会則の一部改正と、これに伴う岩手県支部の承認、並びに副会長に岡　寛純教授が、事務局長に浜本助教授がそれぞれ指名された。また、事業として林業生産、林業行政、資源管理運用などの幅広い総合的なコース

②緑地環境保全コース
動植物保護管理、環境工学などを主とする自然環境保全コース

③住宅・木材加工コース
木材理学、インテリア、エクステリア、木造住宅・建築工学および木材流通を志向するコースの三コースである。

加藤先生を囲んで

林学科カリキュラムの改正

昭和六十二年度より改正された新カリは、新しい林学科のイメージを強調し、女性にも広く林学分野で活躍してもらうべく、教育内容の充実をはかり、より多くの人々に内容の分かりやすいものとしたものである。また、生活様式の高度化に伴う住環境への新たな対応による職域拡大と、みどりの調和が人間性豊かな生涯教育を育むことを目指したものでもある。そのコースと内容の概要は

①林業コース

林業生産コースより押田昌敏君（森林開発公団）が、林業経営コースより正木敏政君（林業経営）、森林工学コースより佐々木貴史君（岩手県庁）、木材工学コースより今瀬伸一君（三井木材工業）、緑地保全コースより押田昌敏君（森林開発公団）が、それぞれ選ばれ、賞状並びに記念品が授与された。今後、授賞者に対し、林業界での活躍と校友会の発展に寄与してもらいたい。

幅広く活躍される難波教授

活躍をお願いしたい難波先生

前国立林業試験場長の難波宣士先生が、本年四月に着任された。先生は昭和二十四年東大林学科をご卒業後、昨年十二月まで林業試験場に勤務され、砂防工学の世界的権威であり、現在、日本林学会会長（農林水産工会会長）でもある。林学科では砂防工学、森林土木学、土質力学、その他実験・実習の講義を担当されるかたわら、夏休み中に中国の黄河緑化、ナイジェリアの砂防に関する技術指導の総括責任者として、幅広く活躍中である。先生にご質問等のある校友諸兄は、ぜひ研究室までお出かけください。

4年ぶりに優勝

学科対抗学部運動会

1位でがんばる林学科学生

毎年恒例の学科対抗学部運動会が五月末に開催され、得点九十一点の林学科が、二位の得点五十三点の学科を大きくリードし、四年ぶりに優勝した。

この運動会は、入学間もない一年生全員を対象に開催される学部の一大イベントでもある。新入生の士気を高めるよい機会でもあり、主として担任と先輩のリードも手伝って大いに盛りあがった。

今後、さらにまとまりのある、すばらしい林学科になることを期待したい。（井上公基）

桜水会

◇水産学科◇

主任教授に添田教授選出

熱心な外国人留学生の院生

桜水会懇親会風景

水産学科の校友の皆さん、それぞれの道で活躍のことと思います。今夏の関東地区は暑さと水不足で厳しい時をすごし、水資源を自分達の問題として考えさせられたことは天の採配と言えましょう。水産学科は穀倉地帯が水中あるいはその湖沼にあり、彼らはこの地上に生を受け、死を迎えるまで、直接的影響を受け、危険にさらされていようとも何の抵抗も出来ずその大切な命を失うことによりわれわれ人間社会にうったえ続けているのです。水はすべての生物の源であり、欠かすことの出来ない極めて大切なものであることは、周知の通りであります。この機に水を大切に!!の精神を養い、地球全体の問題として再考しようではありませんか!!

多彩な院生が集う水産学科

水産学科の大学院の修士課程は昭和四十八年四月に、博士課程は昭和五十年四月に認められ、学生募集が始められましたが、当初は入学希望者は極めて少なく、定員に達することはありませんでした。昭和六十二年度は希望者も多く、定員をはるかに超え、修士課程の入学定員八名のところ十名も入学許可され、その研究が期待されています。特に今年は外国人留学生が熱心で、私ども日本人はもっと努力し、がんばらなければなりません。各研究室の院生を紹介いたします。（名前は十名）

修士課程（博士課程前期・一年）
石井　秀、岡本尚人、イガラシ・マルコ・アントニオ（ブラジル）パット・スハイミ（マレーシア）＝以上、増殖学研究室
生田年立＝魚類学研究室
中村司朗、桧山博昭、山田雄昭＝以上、海洋資源I
奈村久士、渡辺正治＝以上、生化学研究室

修士課程（二年は四名）
伊東基彦、大野光宣＝以上、生化学研究室
福本太蔵＝増殖学研究室
吉川康夫＝漁業生産学研究室

博士課程（博士課程後期・一年は二名）
シディック・アハマド・シャフェイ（インドネシア・ムラワルマン大学水産学科専任講師）
増殖学研究室

博士課程（博士課程二年は一名）
上田鶴太郎＝増殖学研究室
そのほか研究生も多く、その中でひときわ目立つモロッコの美人ハッジ・ヌアマ（女性）さんは、アガジル大学助手を退職し、日本に留学し、大学院入学のためにがんばっています。今後も学部学生を厳しく節度ある学生として育てるとともに、世界の日本大学水産学科として、外国人留学生の教育にも力を入れるべきでしょう。

学科の近況

水産学科では、今年度主任教授として添田秀男教授（二期）が選出され、学科内の調整役を心よく引き受けられ、水産学科のますます発展することを願い、努力されておられます。

夏期休暇中の実験実習

水産学科では、例年この時期に下田臨海実験所を活用し、当地でなければ出来ない実験を当地での中で、教員・学生は食をともにして、その教育効果を高めています。この経験は学生時代の思い出のページを飾ってくれるものだ」と、私自身の経験から推察出来ます。実験所で行われる実験実習は、二年次の海洋学実験、三年次の水産種苗学遺伝学実験、漁業学実験があります。そのほか高校の先生方を対象とした海産生物プランクトン講習会を行い、夏の暑さを忘れ、それぞれ活躍しました。以上のほか東京校舎では二年次の水産増殖環境学実験、三年次の水産動物生理学実験、生物化学実験が行われました。

教員の海外出張状況

教員が比較的長期に研究を空けることが可能な時期は、一般授業の行われない夏季休暇であります。今年は四名が出張しました。

門田定美教授は、国際第四紀学会に出席のためカナダ、出口吉昭教授は、太平洋学術会議で韓国、廣瀬一美助教授は、国際地域研究所派遣研究員として台湾、朝比奈潔専任講師は、魚類産卵生理国際シンポジウムでカナダに、それぞれよき体験を得て、学生の教育に生かされることが望まれます。

桜水会の役員が決まる

昭和六十二年度桜水会役員の改選の年で、本年五月二十三日（土）に日本大学農獣医学部において総会を開催し、円満のうちに以下のように決定されました。（敬称略）

会長　藤田　秀男（三期）
副会長　日野　頼彦（四期）
　　奥本　真人（六期）
監事　山下　金義（一期）
　　堤　俊夫（四期）
相談役　納賀　栄之（四期）
　　杉浦　宏（一期）
　　後興　英俊（二期）
　　柴山　左武郎（五期）

なお、会長の指名により、事務局長は余座和征（十一期）になりました。

このかの新役員の特色は、桜水会発展のために努力されてこられました歴代の会長を相談役としてお迎えし、なお、一層桜水会の繁栄のために指導と助言を願わることになったことです。もう一つの特色は、会長が予想外に大学に残っている校友になってしまったことです。このようなことは総会の席で会長も述べられたように、六十二・六十四年の一期の任期中のみにしていただき、以後は学外の校友を会長として選出していただきたいものと切望いたしております。

桜水会の事業

前会長から引き継いだ二大事業として、会員名簿の発行があります。会員数が多く十分なものは不可能ですが、事務局では最大限の努力をしておりますので、皆様の一人ひとりの協力が大切と考えられます。住所、職業など、変更事項がありましたら、速やかに卒業年度、氏名をご記入のうえ、事務局長までご一報くださいますようお願い申し上げます。

〒一五四　東京都世田谷区下馬三－三四－一　日本大学農獣医学部水産学科・漁業生産学研究室気付
日本大学桜水会　余座　和征あて。電話番号〇三－四一〇－六〇八〇・内線二二。

なお、名簿作成費も十分にはありませんので、終身会費未納の方はなるべく早くお納めくださいますよう併せてお願い申し上げます。（廣瀬一美）

工学会

◇農業工学科◇

理事会ならびに役員会報告

昭和六十二年五月、東京校舎で理事会ならびに役員会が開催された。

理事会において、副会長　村田昇氏（第四期）の議事の進行のもとに、左記の事項が決議された。

一、昭和六十一年度一般経過報告
二、昭和六十一年度決算報告
三、昭和六十二年度事業計画
四、昭和六十二年度予算案
五、その他

引き続き、以上の決議事項が役員会において満場一致で承認された。

とくに、六十二年度事業計画においては、二十五周年記念事業が主体となるが、この記念事業は六年後に控えた創立三十周年記念事業に向けての前段行事として重要なものである。このことから、二十五周年記念事業に向けての実行委員会が発足された。

なお、委員会は卒業年次から各一名選出され、総員二十五名で構成されている。その委員は次のとおり。（敬称略・カッコ内の数字は期別）

委員長　大川　武夫（十二）
〃　岩川　重雄（一）
〃　鈴木　鋭一（一）
〃　西川　昌宏（二）
〃　富樫　博光（四）
〃　新井勝次郎（五）
〃　新藤　薫（六）
〃　尾崎　直龍（七）
〃　林　正美（八）
〃　土居　悟（九）
〃　新城　紳（十）
〃　小林　建樹（十一）
〃　潮田　博（十二）
〃　三島　豊（十三）
〃　生子　弘行（十四）
〃　笹栗　啓一（十五）
〃　鈴木　正光（十六）
〃　小山　雅意（十七）
〃　磯野　彰人（十八）
〃　河内　徹夫（十九）
〃　富樫　香流（二十）
〃　工藤　誠一（二十一）
〃　白岩　良雄（二十二）
〃　尾花　富蔵（二十三）
〃　小鳥　次郎（二十四）
〃　笹島　栄夫（二十五）

七月、九月に委員会が開催され記念事業としての名簿発行および祝賀パーティー（昭和六十三年九月二十四日予定）などについて検討が進められております。

25周年記念事業実行委員会参加者一同（東京校舎正門で）

創立25周年を迎えるにあたって

会長　一川　宏也

会員の皆様には、ますます清栄のことをお慶び申し上げます。日ごろ工学会発展にご協力、ご支援を賜わり厚くお礼申し上げます。工学会も創立以来、来年で二十五周年を迎えようとしております。会員数は、現在、三千百八十名に達し、それぞれ各界で活躍され、名実ともに力が出きたと申しても過言ではないと存じます。

来年は、記念事業を盛況に終り行うため、その準備を推進している段階であります。できるだけ多数の校友の方々が一同に会せるよう、今から仲間に声を掛け合ってください。

校友会の原点は、人の繋がりにあります。その意味で、いかに校友達が結びひろえるかを、会長の職務として考えていきたいと存じます。ぜひ皆様にご出席いただき、会を盛り上げてくださるようお願いする次第です。

終わりにあたり、校友会々員の皆様のご健康と、ますますのご活躍を心からお祈りいたします。

学部交友会理事の交代

八木　茂理事は、農林水産省那須草地試験場・草地立地研究室長に栄転されたことから、吉川宏一氏（第三期）に、また世良田和寛理事は、学部校友会事務局員に推薦されたため、辻　厚志氏にそれぞれ交代されました。

学科の近況

今年四月より農業工学科主任に千葉　栄教授（地域保全工学）、大学院　専攻主任に木村　進教授（農産物貯蔵学）がそれぞれ新任され、農業工学科の充実・発展にご尽力をいただいております。

非常勤講師関係

本学科の教授各位が定年退職されてから非常勤講師としてお越しいただき、建設機械・金属材料などを担当していただいておりました土田悦郎先生、基礎工学を担当していただいておりました佐々木次郎先生は、今年三月退職されました。また、五十六年四月からみえられ防災工学を担当していただいておりました関口有万先生は、今年三月退職されました。先生方の一方ならぬご協力を、心より感謝するとともに、末長くご健康でありますよう、お祈り申し上げます。

さらに非常勤講師関係では、今年四月より、久保田正光先生は、健康上の理由から一時退職されておりましたが、健康回復後、再度建築法規を担当していただいております。また、新たに講師としてみえられました、宇津橋昭八郎先生（大興建設㈱）には土木施工法を、仕入豊和先生（東京工業大学教授）と、荒功敏三先生（日田建設㈱）には、それぞれ建築材料と建築施工を担当していただいております。

昭和六十一年度農業工学科卒業生は百二十九名と院生三名。就職先としては、国家・地方公務員関係十二名、民間企業九十三名、教員二名、団体九名、進学（大学院）四名、その他十九名。

また、現在の在学生数は、一年次二百五十名、二年次百八十六名、三年次百八十三名、四年次百六十名、院生二名という状況です。

1年生の研修旅行（香北地区圃場整備現場で）

稔り多い一年次の研修旅行

昨年度より、農業工学に係わる専門的分野を、早い時期に理解させること、および教員と学生、学生相互間の親睦を図る目的で、新入生各学年に研修旅行を実施しております。本年は、教員十一名、新入生百七十五名の参加のもとに六月十六日・十七日の両日に行われました。

初日は、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で、日本の歴史・文化・生活様式および農業とその技術変遷過程を見学し、二日目は、千葉県下の土地改良事業現場をはじめ、利根川河口堰・利根川水系・水産庁水産工学研究所内の実験施設など、それぞれ各機関の担当者の案内で見学を行った。一年十月三十一日に逝去されました。享年六十九歳。

和田　忠先生は、去る昭和六十一年十月二十七日、逝去されました。享年八十六歳。先生は、昭和三十八年三月に北海道大学を停年退職され、同年四月に本学科の教授として赴任され、四十五年一月に停年退職されましたが、就任中は主任教授として学科発展のために尽力をいただきました。また退職後も五年間非常勤講師として学生の指導にあたられました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

熊井安義先生は、去る六十二年四月八日に逝去されました。享年七十六歳。

四先生は、非常勤講師として、建築関係の科目を担当されておりました。四先生には、約十二年間の長きにわたり、本学科の建築関係の内容・充実を図るため終始ご協力をいただきました。

ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

事務局から

工学会の大きな事業は、会員名簿の作成にありますが、一層の内容充実を期するためには、会員皆様方のご協力なくしては達成することはできません。名簿は、会員皆様方の絆を保つ唯一のものと考えております。したがいまして、住所、勤務先等の変更、または前回発行（敏＝二十周年記念）の名簿に誤りなどがございましたら、ぜひご連絡ください。

さらに、名簿のクラス会の開催予定がありましたら、事務局までお知らせください。（石川重雄）

訃報

樫平昌則先生・和田忠先生・熊井安義先生ご逝去

樫平昌則先生は、去る昭和六十一年二月二十七日、逝去されました。享年八十六歳。先生は、昭和三十八年三月に北海道大学を停年退職され、同年四月に本学科の教授として赴任され、四十五年一月に停年退職されましたが、就任中は主任教授として学科発展のために尽力をいただきました。また退職後も五年間非常勤講師として学生の指導にあたられました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

教授には、謙虚と入学してきている学生もいるようであるが、後日の研修旅行感想文を見ると、かなり農業工学分野の一端を理解されたと様子が伺われた。

入学直後の時期に行う同行事の意義について、改めて認識した次第である。

食品工学会

◇食品工学科◇

学科内の動向

★食品工学科に新人二人

食品製造学研究室の土岐理恵子副手が、本年三月三十一日付で退職され、その後任として平田明弘氏が助手として採用されました。

平田助手は、昭和五十九年に食品工学科を卒業（第十九期生）、その後、昭和六十一年、博士前期課程を修了されております。

平田明弘助手

また、食品製造工学研究室には小林陽子さんが副手として採用されました。小林副手は、本年三月本学科を卒業された第二十二期生です。

小林陽子副手

お二人のご活躍を期待しております。

★横屋先生が退職

本年三月、食品化学工学研究室の横屋敏之助教授が、一身上のご都合により依願退職されました。

横屋先生は、食品工学科の創立時より二十有余年にわたり、学科のために尽力されて来ました。

今回の退職は、誠に残念な限りです。今後は学部外で仕事をされるとのこと。ますますのご活躍を願ってやみません。

その後、日本大学大学院の農学研究科食品工学専攻に進学され、昭和六十一年、博士前期課程を修了されております。

★食品保蔵学研究室

春田三佐夫教授（第一研究室）、梅津勝三助教授（第三研究室）、荻原博和助手（第二研究室）。

研究室の主なテーマは、食品の保蔵性と安全性の確保を図るため、主に微生物学的な立場から研究することです。その内容としては、ブドウ球菌食中毒予防のための基礎的研究、低温保持式殺菌牛乳の微生物学的品質、ガス充填包装による食肉の保存に関する微生物学的研究、食肉、肉加工品の保存にともなう食品組織的変化に関する研究などが行われています。

本年度、当研究室に所属の大学院は三名、四年生は三十三名でいます。

卒論実験に励む学生達
（食品保蔵学研究室）

研究室の案内

今回は、食品保蔵学研究室と食品分析学研究室について掲載します。

★食品分析学研究室

佐藤寿教授（第一研究室）、千野誠専任講師（第二研究室）、福留久美子副手（第一研究室）。

研究室の主なテーマは、食品添加物に関する研究で、たとえば、天然糊料などをはじめとする天然添加物に関する研究、添加物として使用される微量元素の研究などがあります。分析機器としては、赤外分光光度計、ポーラログラフ分析装置、ガスクロマト・液体クロマト装置、ICP発光分析装置など、数多くの機器類がそろっています。

多くの分析機器類

本年度、当研究室に所属の大学院は一名、四年生は三十二名でそれぞれ勉学・研究に励んでいます。

勉学に励む多くの留学生たち

本年四月、食品工学科に四名の留学生が入学しました。これにより、学科の留学生の人数は十一名となりました。（表2参照）

出身国は、台湾が八名と多く、韓国二名、マレーシア一名の順となります。

なお、大学院食品工学専攻にも三名の留学生がいます。

また、本年六月から七月にかけて、タイ国のVIBULSRESTH PREEYA さん（タイ・カセサート大学助教授）が、農獣医学部国際地域研究所の研究員として来日し、食品微生物について研修されました。

（表1）
学年別の留学生数

1年生	4名
2年生	1名
3年生	3名
4年生	3名
合　計	11名

（表2）61年度の就職状況と62年度の就職希望状況

産業分類	就職状況（人数）	就職希望（人数）
食料品製造業	60	127
専門商品卸売業	24	5
飲食店	15	3
自家営業	9	0
情報サービス業	6	1
各種商品小売	6	1
化学工業	5	8
公務員	4	22
教育	4	3
その他・不明	45	13

（千野誠）

就職状況について

事務局では、準会員である在校生との繋がりを強めるため、就職懇談会などを開催する予定でいます。その資料として、今回六十一年度の就職状況と六十二年度の就職希望状況をまとめました。（表2参照）

毎年、食料品製造業や公務員を希望する学生が非常に多いのですが、実際には、卸売業、小売業、外食産業などに就職することになる学生もいるようです。

諸先輩におられましても、在校生よりの相談などがありましたならば、ぜひよいアドバイスをいただけますようよろしくお願いいたします。

（千野誠）

食品に思う

食品工学会理事
日本大学鶴ヶ丘高等学校教諭
坂野　忍（一期生）

会員の皆様、暑さ厳しい夏を克服され、ますます御勝のこととお存じます。小生も食品工学科を巣立って二十二年になります。

古い話で恐縮ですが、昭和五十九年十月に挙行された20周年記念式典に臨んで嬉しかったことは、皆様が各分野で責任ある立場に就いておられ、ご活躍されていることであります。先日、学科の先生方にお聞きいたしますところ、今年の就職戦では円高や貿易摩擦に関係なく、昨年並みの順調な滑り出しとのことで安心しております。また、昭和63年度の入試難易ランキング（進研ゼミ・福武書店）によりますと、日本大学農獣医学部の偏差値は51であります。特に高校生は、バイオ関連学科や食品工学に人気が集中しているようです。付属高校で進学指導を行っている一員として、農獣医学部のレベルアップは喜びの反面、悩みの種になっております。

食品業界に進まなかった小生ですが、昔、学んだ「食品工学」は、今でも頭の隅に残っておりまして、製造が間に合わないということです。何がヒット商品になるかわからない最近の食品事情でありますが、数多い日本古来の伝統食品（和食）の味は、後世に残していきたいものであります。

この八月に故郷・米沢に帰省した折に旧友に聞いた話ですが、お粥の缶詰が最近の若者に人気があるはずの諸兄に対し、改めて敬意と感謝を申しあげる次第です。

食品工学会理事
日本大学鶴ヶ丘高等学校教諭
坂野　忍（一期生）

は、世界の食品がファッショナブルにレストランやホテルなどのテーブルに並び、一品一品が洗練された芸術品の感を与え、T・P・Oに応じて、その場の雰囲気を演出しています。その名演出家である人総グルメ時代の渦中にあり、飽食の時代の中で食品の嗜好が多変わったように思います。一方で折にふれて食品を食品工学的に見てしまいます。

最近、小生が興味をもって見ていますのは、ハイテク（コンピュータやメカトロニクス・新素材・バイオテクノロジーなど）の新技術が食品工学といかに融合していくかであります。最近、食品会社でも提携や成人病の特効薬の開発提携などがなされているようです。正に学際的知識が一層必要な時代が到来したような気がします。学科の先生方をキーステーションにして、情報交換を行い、親睦の輪を拡げましょう。最後に会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

拓友会

◇拓植学科◇

東郷記念館で

拓友会40周年記念祝賀会

昭和六十二年五月二十二日(金)、東郷記念館において、拓友会四十周年記念祝賀懇親会が開催された。

40周年記念祝賀懇親会で

開会の言葉に続き、近年にてなられた方々への黙祷が行われた。

庄川洋一会長の挨拶に続き、久木田賢志日本大学副総長・農獣医学部長、久恒真佐子日本大学校友会本部事務局長、佐藤弘一日本大学校友会副会長・農獣医学部校友会会長、宮崎宏拓植学科主任教授の挨拶が行われた。

続いて、感謝状の贈呈が行われ近藤良三郎副会長から、工藤正城顧問、庄川洋一会長、岡田正男副会長、北川佐元副会長、木村正之元副会長、水野勇郎元副会長にそれぞれ感謝状が贈呈された。

挨拶する台湾拓友

館蔵英去拓植学科主任のご発声により、乾杯が行われ、懇談会に入り、はるばる台湾から出席された祭柏荣、林秋田、張彬茂の台湾校友の紹介と挨拶があり、韓国拓友会からの祝電披露も行われた。

拓植学科の新任紹介も行われ、上原秀樹助教授、藤田泰伸専任講師が紹介された。

その後、記念撮影や校歌斉唱が行われ、小久保秀一副会長の発声による分科会に引続いてこの記念祝賀懇親会は幕を閉じた。

多くの人々が出席され、終始なごやかな雰囲気につつまれた会であった。出席の皆様にはお礼申しあげます。

拓友会40年の歩み

祝賀懇親会で配布

拓友会創立四十周年事業の一環として、「拓友会四十年の歩み」という小冊子が作成され、祝賀懇親会において配布された。同誌には、拓友会創立のころのことや、四十年の歴史、そして戦前の授業風景の写真や拓友会開催時の写真などが載せられている。

また、四十周年記念品としてテレホンカードが作成された。

その他、四十周年記念事業としては名簿整理が行われている。これは名簿をコンピューター処理するもので、現在相当数の入力が行われたが、住所不明の人達も多いので、拓友の皆様には、ぜひ現況を事務局までお知らせいただければ幸いと思います。

小久保秀一氏が新副会長に

東郷記念館で総会

昭和六十二年五月二十二日(金)東郷記念館において、六十一年度活動報告および決算報告、六十二年度活動計画ならびに予算案がそれぞれ審議され、可決された。

人事では小久保秀一理事が新しく副会長に推され、承認された。

四十周年記念行事をひかえた総会ではあったが、多数の拓友が出席、活発な意見がかわされた。

拓友会報第12号を発行

三月に拓友会報第十二号を発行今回は寄稿特集「拓友から拓友へ」で、海外で活躍している卒業生からの寄稿を特集しました。

国内で活躍されている拓友も多いと思いますので、多くの投稿を期待しております。

庄川氏が校友会会長に選出される

庄川洋一拓友会会長は、七月の農獣医学部校友会総会において、農獣医学部校友会会長に選出された。今後の一層のご活躍を期待し支援してゆきたいと思います。

宮崎教授が拓植学科主任に

昭和六十二・三年度の拓植学科主任として、宮崎宏教授が選出されました。宮崎教授は拓植学科が作られたときから拓植学科に在籍され、拓植学科については最も詳しい先生です。ご活躍を期待します。

磯辺、後藤両先生逝去

拓植学科初代主任、本学部第四代学部長、磯辺秀俊先生は、昭和六十二年十月四日、すい臓癌のためご逝去されました。享年八十四歳。

×　×　×

拓植学科元教授、後藤逸一先生は、本年三月十日、急性心不全のためご逝去されました。享年八十歳。

両先生とも、拓植学科の新設、発展に寄与されました。ここに両先生のご功績を讃え、謹んでよりご冥福の意を表し、ご冥福をお祈り申しあげます。

新）の（紹介）（任

昭和六十二年四月から、上原秀樹助教授と藤田泰伸専任講師が、新任として来られました。

上原秀樹助教授は、神縄県出身ハワイ大学、同大学院を卒業、千葉大学助教授を経て、拓植学科に来られました。担当は国際経済学、経済学で、部屋は国際協力第二研究室です。

藤田泰伸専任講師は、京都府出身、大阪外語大学を卒業され、京都産業大学講師を経て、拓植学科に来られました。担当はインドネシア語で、部屋は拓植語学第二研究室です。

松本昭子副手が、六月末で退職されました。後任に谷口千鶴副手が来られました。谷口副手は昭和六十一年拓植学科卒業で、部屋は拓植第二研究室です。

井上専任講師が韓国に留学

拓友会の前事務局長の井上雅也専任講師は、昭和六十二年度の日本大学海外派遣研究員に選ばれ、七月下旬に日本を出発、現在は韓国ソウルにある韓国農村経済研究院で、「韓国における農業技術の展開と生産力に関する研究」をテーマとして、研究中です。

一年間の長期派遣ですので、来年八月ごろまで韓国に滞在されます。成果が期待されます。

研究室が移動

6号館と3号館に

本年四月より、研究室が大幅に移動しました。六号館と三号館にわかれていますが、研究室名と場所は以下の通りです。

六号館六階
【経営第一研究室】
宮崎　宏教授
【経営第二研究室】
陳　仁嫻助教授、早川　治専任講師
【国際経済第一研究室】
久木田　賢志教授、長谷川　勝男助教授
【国際経済第二研究室】
長谷川　勝男助教授
六号館五階
【拓植第一研究室】
井上　雅也専任講師、三好　眞裕美副手、谷口　千鶴副手
【国際協力第一研究室】
金沢　夏樹教授
【経済第一研究室】
遠藤　浩一教授
六号館四階
【国際協力第二研究室】
上原　秀樹助教授、半沢　和夫専任講師
【拓植語学第一研究室】
横沢　豊教授
【拓植語学第二研究室】
相座　昭夫専任講師、藤田　泰伸専任講師
三号館四階
【環境農学第一研究室】
村井　正之専任講師
【環境農学第二研究室】
広瀬　昌平教授
【環境農学第三研究室】
椎丈　敬次専任講師

事務局から

◆拓友会事務局では、井上雅也前事務局長の長期海外派遣に伴ない、早川治氏が新事務局長となりました。

◆名簿整理のため、拓友の現況を知りたいと思いますので、友人などの住所を事務局までお知らせください。

（緒方行広）

むつあい会

◇短期大学農業科◇

短大は農業科と生活環境科の二本立てに

短大農業科校友の皆様には、ますます健勝にご活躍のこととお存じます。今年は天候不順できびしい残暑の夏でしたが、いつしか秋風の立つ季節となりました。

本年も、学部校友会会報を通して農業科及びむつあい会の近況をお知らせします。

農業科の近況

昨年の会報でもお知らせしましたが、六十三年度より短大は農業科（定員百名）と、生活環境科（定員五十名）の二本立てで運営されることになり、目下その準備に取り組んでいる最中であります。

農業科では去る三月に百四十五名の卒業生を社会に送り、四月には百六名の新入生を迎えました。一年次、二年次各コース別学生の在籍者数は表1に示しました。園芸コース＝百四十六名（四七%）、緑地造園コース＝九十四名（三〇%）、生活環境コース＝七十名（二三%）となっており、園芸コースの志望がこれまで同様に多く、各コース別に分れて勉学に励んでおります。

新入生の歓迎を兼ねて、毎年恒例になっております軽井沢研修旅行、今年は四月十五日～十七日の二泊三日の日程で実施しました。この研修旅行は農業科の最大の行事の一つで、一年次全員と二年次有志の学生と全教員が参加して行われ、一日目は新入生に対し、学生活全般についてのオリエンテーションを行い、翌日は親睦を兼ねて塩沢湖まで班別対抗のオリエンテーリング、最終日は軽井沢の自然を見学し英気を養いました。内容は昨年同様となりましたが、三日間とも晴天に恵まれ、研修旅行も無事終了することができました。

また、研修旅行と並んで二大行事の一つで、天皇の尊えに感謝する収穫祭も、生活環境コースが発足してから、短大フェスティバルと称したこともありましたが、昨年は短大祭りとして十二月二十九日（土）新食堂棟において、学生百三十名ほど参加して盛大に行われました。

次に農業科の教員の陣容についてお知らせします。農業科専任教員は教授九名、助教授二名、専任講師五名、副手二名の合計十九名が学生の教育指導に当っております。

これら専任教員も六十三年度の新しい科の発足により、それぞれ分れることになっております。この四月から青山友雄専任講師（植物生理学）の両先生が、助教授に昇格されました。両先生の今後のご活躍を祈念します。なお、浅野助教授は雑草の調査研究のため、十月から二カ月間、タイ国カスタト大学に派遣されることになっており、先生のご健闘をお祈りしたいと思います。また、生活環境コースの実験でお世話へたさいました笹王由起子副手が三月で退職され、後任にとの三月末農学科を卒業されました市場紀子副手が昇任されました。

卒業生の就職と進路の状況

去る三月に百四十五名の卒業生を送りましたが、その進路状況は学部進学五十一名（三五%）、専門学校三名（二%）、就職五十名（三四%）、自営十六名（一一%）、その他二十名（一八%）となっております。これまで学部進学は獣医学科を除いて農学科は三年に、その他の学科は二年に編入学が認められておりましたが、カリキュラムの改正によって農学系の科目が少なくなったため、農学科も二年編入となり、三年編入が認められなくなったことは、進学希望の学生にとって、今までより条件が厳しくなったわけです。

今年は生活環境コースの第一回の卒業生を送り出す年でもあり、就職状況も心配されましたが、比較的順調にすすみ、その主な就職先は農協（四）、種苗会社（四）、造園会社（二）、自動車販売（二）、銀行（二）、生命保険（二）、証券会社（二）、建設会社（二）、自動車販売（二）、公務員（二）、その他製造会社、商事会社などとなっております。

学生の就職に当っては、校友先輩の格別のご協力を心からお願いします。

軽井沢研修旅行（研修所前で）

短大農業科コース別学生数（昭和62年4月）

年次	園芸コース		緑地造園コース		生活環境コース		合計
	(男子)	(女子)	(男子)	(女子)	(男子)	(女子)	合計
1年次	43	3	28	2	−	30	106
2年次	80	20	61	3	−	40	204
計	123	23	89	5	−	70	
合計	146		94			70	310
(%)	47		30			23	100

むつあい会会報編集

むつあい会の近況

昭和六十二年度第一回の理事会は一月三十一日（土）、第二回理事会は二月二十一日（土）藤沢校舎において開かれ、総会提出議案について検討されました。昭和六十二年度の総会は三月十四日（土）十期）にお願いすることになりました。懇親会は例年通り総会終了後、第一会議室において来賓多数出席のもと盛大に開催され、なごやかな雰囲気の中で懇親を深め、一年一回の旧交を温めるよい機会となりました。

事務局から

昭和六十三年度の総会は、三月十九日（土）藤沢校舎において開催の予定です。翌日は三連休となりますので、会員多数のご参加を期待しております。

むつあい会終身会費の納入について協力ください。むつあい会では、会員の親睦のために会員名簿及び会報を発行しておりますが財政上はなはだ困難になってきておりますので、未納の方（五十九年度以降卒業は壱万円）は、左記口座に振り込みください。

銀行口座　三菱銀行藤沢支店
二五七十四三三九三八一　日本大学短期大学部農業科校友会　代表　斎藤忠雄。または郵便振替口座
横浜・〇一七七〇四九　藤沢市亀井野一八八六　日本大学農獣医学部藤沢校舎むつあい会あてにお願いします。

最後に校友の皆様のご健康と多幸をお祈りいたします。

（斎藤忠雄）

神奈川県下に在住する、農獣医学部ならびに短大農業科卒業の皆様お変りありませんか。

お陰様で本年、農獣医学部会は創立十周年を迎えようとしており、記念行事を成功させるために早く様から将任幹事会・幹事会を開き、準備をして参りました。事務局でも八月三十一日には校友への総会案内八百二十一通、来賓の招待状六十通を発送いたしました。あと幹事から電話で連絡を取った校友の追加発送二百通となりました。

思いおこせば、昭和五十二年六月、日本大学校友会神奈川県支部の総会に出席した何人かの学部出身者から、県支部の中に「農獣医学部・短大農業科卒業生の部会を作って、より多くの校友に集まるチャンスを作り、親睦の輪を拡げようとの話がでて、準備を進め、昭和五十三年十月五日に校友百十名、学部長をはじめとする来賓二十名の出席を得て、横浜中華街「華正楼」で設立総会が開催されました。それから九年の歳月が経過いたしました。

部会の会員は名簿上では三千名を数えるといわれますが、事務局が掌握している数は千三百名くらいです。会員から年会費も徴収せず、会員の親睦を図ることを目的として、農獣医学部・農学・獣医・畜産・農業工学及び短大農業科が、神奈川県下の藤沢校舎で授業を行うことになり、私達の校友会も意識を強め、ますます充実した活動を展開するようになりました。

日本大学農獣医学部会神奈川県支部

農獣医学部会創立10周年記念総会

昭和六十二年度は、創立十周年記念総会となりますので、皆様の思い出深い六会（むつあい）の藤沢校舎で現在パイテク研究棟は工事中ですが、三月に完成した体育館兼大講堂や研究室などを見ていただき、その後一堂に会して、懇親会では、一流のフランス料理と模擬店の寿司、そば等舌鼓を打ち美しいコンパニオンの接待で酒を酌み、昔の仲間が旧交を温めていただき、空ジなしの大抽せん会を行い、秋の一夜を皆様と楽しく過ごしたいと企画しております。

十周年記念総会懇親会案内

一、日時＝十月三日（土）
　懇親会　午後四時三十分
一、会場＝小田急線・六会下車五分農獣医学部藤沢校舎
　総会・本館四階第一講義室
　懇親会・食堂棟三階大ホール
一、会費＝金八千円

（佐々木弘康）

秋田県下の農獣医学部卒業の校友の皆様は、厳しい情勢の中で各校にわたって、ますます元気でご活躍のことと存じますし、またさらに一層のご健勝を続けられますことを祈っております。

さて、県下校友の皆様にご報告申し上げますが、去る七月十一日東京で開催されました農獣医学部校友会総会に、はなはだ勝手ながら私が出席いたして参りました。

総会には、多数の校友の出席はもとよりですが、多くの先生方と接することができまして、あまりにも長い間のご無沙汰でしたのでまことに懐かく方感胸に迫るものがありました。そして、あまり一世紀において、発展の中軸となるのなつかしさに、時を忘れ、我を忘れて過ごして参りました。

総会におきましては、学部長より「わが大学は、創立以来百周年を迎えるが間近であり、二十一世紀を迎えるにあたり、この年を大いなる意義あるものとしなければならない。そのためには、二十一世紀の活躍を基軸となる記念事業を、校友各位の絶大なる協力のもとに、盛大に開催いたしたい」との趣旨のご挨拶があり、ご出席の校友各位の満場の賛同の拍手に包まれたのであります。

県下校友の皆様におかれましても、ご理解の上でご協賛くださるようお願い申し上げるところであります。

校友の皆様、県支部の活動は、事務局をあずかる私の力量で、第一回の総会開催以来遅滞しているところでありまして、まことに申しわけなく存じており、皆様のご叱責を甘受せざるを得ないところでありますが、本年は、役員の皆様のご指導で開催の運びにもっていきたいと存じますので、広範多岐のご活躍で多忙のことと存じますが、ご参加をお願いします。

（佐藤　鉄太郎）

今年の夏は全国的に暑く、35度C以上の日が各地で続いたために、水不足で、飲料水や農業用水に事欠いたのが、特に注目されたことでしたが、水稲、果樹関係にたずさわっている各位におかれましては、特に気苦労の多い夏であったと思われます。山梨県内の校友各位におかれましはお変りありませんか、お伺い申しあげます。

農獣医学部校友会山梨県支部では、本学部を全県民の多くに知ってもらおうと、県内の農業高校と進学校の進路指導課の先生あてに学部会報を送りました。また、山梨県立甲府一高、52回窓会記念誌に、学部及び学部校友会の紹介を掲載しました。

これからは、出来る範囲で学部及び校友会を、アピールしてゆきたいと思っています。

× × × ×

五月の地方選挙には日大の校友が多く、出馬しましたが、山梨も数多く、出馬しましたが、山梨県は、富士吉田市、吉田の会社員・中川雄三氏が、優れた動物写真家に選ばれた第四回フニマ賞を授与されました。校友が、いろいろの分野で活躍されております。

× × × ×

校友会山梨県支部活動に、仮名簿を作成しましたが、本名簿を去る、農学化学科34年卒の日向進氏が、フドウ栽培で農学博士の学位を授与されたことは、先の会報で報告しましたが、同じく校友であり、富士吉田市、吉田の会社員・中川雄三氏が、優れた動物写真家に選ばれた第四回フニマ賞を授与されました。校友が、いろいろの分野で活躍されております。

× × × ×

今年は秋の総会は未定ですが、順次、サントリー山梨工場及び農場、勝沼ブドウ酒工場、地場産業センターなどの見学する機会を作ることを計画しております。その節は校友各位の参加をおねがいします。

（遠藤晴正）

大阪支部

近辺在学生を無料招待

総会は三年目ごとに開催決定

今年こそは総会を開いているが、昨年の総会に新しい試みとして、大阪府内ないしC以上の日が各地で続いたために、学部会報を送ったところ、六名が出席してくれました。学生運を満足していた様子だったので、今後もつづけてゆきたい。

さて、六十一年度の総会は八月二十三日（日）に開催したが、この総会に出席した在学生を無料招待しようと提案の改正を行ったところ、六名が出席してくれました。学生運を満足していた様子だったので、今後もつづけてゆきたい。

× × × ×

五月の地方選挙には日大の校友が多く、出馬しましたが、山梨県立甲府一高、52回窓会記念誌に、学部及び学部校友会の紹介を掲載しました。

× × × ×

去年、農学化学科34年卒の日向進氏が、フドウ栽培で農学博士の学位を授与されたことは、先の会報で報告しましたが、同じく校友であり、富士吉田市、吉田の会社員・中川雄三氏が、優れた動物写真家に選ばれた第四回フニマ賞を授与されました。校友が、いろいろの分野で活躍されております。

× × × ×

校友会山梨県支部活動に、仮名簿を作成しましたが、本名簿を

山梨支部　多くの県民にアピール

学部会報を高校に発送

にあっては、全員当選で花を添えました。

× × × ×

昭和六十二年度は、創立十周年記念総会となりますので、皆様の思い出深い六会（むつあい）の藤沢校舎で現在パイテク研究棟は工事中ですが、三月に完成した体育館兼大講堂や研究室などを見ていただき、その後一堂に会して、懇親会では、一流のフランス料理と模擬店の寿司、そば等舌鼓を打ち